



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.1.24 No. 4535

97 弁護団総会開催

(1/18)

職場の闘いと結合し

裁判・労働委員会闘争に勝利しよう!

動労千葉は、一月八日、三時より、千葉市・ホテルサンシティーにおいて、九七年動労千葉弁護団総会を開催し、分割・民営化から満一〇年目を迎えます。ますます重要になってきている全ての裁判・労働委員会闘争の勝利をめざして闘いぬくことが確認された。

「全ての事件で決定的勝利を」
葉山弁護団長あいさつ

弁護団総会の冒頭、中野委員長から、「九六年はJR東労組の組織分裂から始まりついには『列車妨害』から『国労解体』にまで行き着いた。一方、国労は、『八・三〇申入れ』を行なうなど、国鉄闘争にとって今年が最重要になってきている。満一〇を迎えた攻防は、これまでのレベルを超えた闘いになる。恒常的スト体制をさらに堅持して闘いぬく。また、清算事業団一二名の上告審、公労法解雇された二八名をめぐる高裁での闘いも山場にかけている。弁護団の奮闘に励み、動労千葉も全力で闘おう」と、あいさつが行なわれた。

葉山弁護団長からは、「分割・民営化から十一年目にはいる国鉄闘争は、まさに正念場になるうとして闘っている。昨年は、『九〇・三スト支配介入事件』での地労委の勝利命令をかちとるとともに、『JR不採用事件』での中労委の反動命令に対する反撃を開始してきた。動労千葉の呼び掛けた十一・一〇集会も成功し、破防法に対しても『破棄』に追い込む闘いを展開してきた。全ての事件の決定的勝利をかちとろう」と各弁護団に対する要請が行なわれた。

また、早稲田大学・佐藤昭夫教授から国労の問題に触れ、政府・JRに謝罪させないかぎり何も解決しないこと、修善寺大会の方針を堅持しないかぎり勝利はありえないこと、JR東日本の株主総会での会社側の答弁に虚偽があったとして『過料の制裁』を求める申立てを行なったことなどが報告された。

国鉄—安保・沖縄闘争の高揚で、労働運動の新たな潮流を

つぎに、田中書記長から国鉄闘争の情勢と動労千葉の現状に

ついて、当面、①国鉄闘争が、労働運動全体の未来にとって決定的位置を占めることを自覚するとともに、その軸がJR総連革マルとの組織攻防にあること、②佐倉機関区廃止を三月夕イ改の闘いの最大に課題とし、九七春闘と結合して闘うこと、③国鉄闘争と安保・沖縄闘争の高揚の中から、労働運動の新たな潮流をつくりあげること、④これらの闘いとともに公労法解雇二八名、清算事業団一二名の解雇撤回闘争を全力で取り組むこと、⑤新たに申立てた「木更津支部脱退強要事件」を初めとした全ての事件の勝利をめざして闘うことが報告された。

解雇撤回・清算事業団闘争に議論集中

各事件の担当弁護士から報告が行なわれた後、討論が行なわれた。

討論では、第一波・第二波スト公労法解雇二八名と、JRを不採用となり清算事業団に送られた一二名の解雇撤回問題に議論が集中した。

公労法解雇二八名の問題については、解雇から十一年目に入

り、東京高裁での闘いも山場を迎えていることから、今後の解雇撤回の取り組みを強化することが確認された。

清算事業団十二名の問題に関しては、九五年五月の反動判決以降、同年六月に上告してからすでに一年半が経過し、さらに今年四月で分割・民営化から満一〇年を迎え、国鉄闘争が正念場中の正念場を迎えることから、最高裁に対する取り組みを早急に行ない、解雇撤回・清算事業団闘争勝利をかちとることが確認され、九七年弁護団総会は成功裡に終了した。

不当労働行為に明け暮れるJRと、ファシスト労働運動で労働者に襲いかかるJR総連革マルを解体・一掃して組織拡大をかちとるためにも、職場での恒常的ストライキ体制を堅持して原則的に闘いぬくとともに、全ての裁判・労働委員会闘争の勝利をめざして、動労千葉一丸となつて九七年を突き進もう!

当面するスケジュール

- 第三七回定期委員会
とき 二月一九日(水)
ところ 千葉県物産センター
傍聴に結集しよう!
- 佐倉機関区廃止阻止!
動労千葉総決起集会
とき 二月一四日(金)
ところ 佐倉機関区
全力で結集を!
- 九〇・三スト支配介入中労委
とき 二月 六日(木)
ところ 東京・芝
中央労働委員会
中野委員長の証言